

第10回科学者委員会 学協会連携分科会

1. 日時 令和元年 11 月 11 日(月) 10:00～12:00
2. 場所 日本学術会議 5 階 5—C(1)会議室
3. 出席者 望月眞弓, 川口慎介, 宮崎恒二, 石川冬木(Skype 参加), 米田雅子(委員長), 三成美保, 谷口勝司, 後藤弘子, 池田駿介, 吉村忍, 山口 周
4. 配布資料
5. 議題
 - (1) 前回議事要旨について
前回議事要旨について確認した。
 - (2) 協力学術研究団体の規定改正について
 - (3) 研究者の定義について
(2)並びに(3) についてまとめて審議した。資料 2 に基づいて前回の議論を総括するとともに、科学者委員会において提起された研究者の定義については、慎重を期すべきとの意見を反映した改訂案をもとにして審議し、一部の修正を加えて最終案とした。
なお、今回の修正での主な修正は、「研究者に準ずる者」を「研究者とみなされる者」とすること、ホームページ削除して規定条文そのものを掲載すること、などである。また、役員に関する規定(研究者が半数以上)については現行通りとする。合同出版については原案より変更なしとする。最終案は米田委員長が取りまとめること(委員長一任)とした。
 - (4) 学協会名鑑集計レポートについて(川口委員)
資料 4 をもとに、学協会名鑑のデータの集計結果を川口委員が報告し、その内容について審議した。学協会の規模が2000人以上では会員数が過去10年で増加傾向にあるが、2000人以下では減少傾向にあること、各学協会の会員数増減についてその規模と頻度は(データの不備によるエラーを除くと)正規分布にしたがうこと、臨床医学関係の学協会の総数が約120万人規模で最大であることなど、多くの有益な情報が得られることがわかった。
 - (5) 公益法人制度に関わる提言について(池田委員)
佐久間総一郎公益認定等委員会委員長と非公式協議を行い、日本学術会議の提言について説明・意見交換したとの報告があった。
 - (6) 第三部理工系学協会の活動と学術情報に関する分科会の活動について(山口委員)
資料 4、5 をもとにして分科会の活動について報告し、その内容について審議した。OA 化とフラグシップジャーナル、学協会連携とは必ずしも相関しない等の議論があった。
 - (7) その他
次回は来年度以降に開催予定。